



編集・発行

大阪府立

呼吸器・アレルギー医療センター

大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1

TEL: 072-957-2121

FAX: 072-958-3291

HP: <http://www.ra.opho.jp>

E-mail: kokyucen@ra.opho.jp



咳がとまらない

院長 ^{かわせ}川瀬 ^{いちろう}一郎

皆さん、いかがお過ごしですか。短い秋が過ぎて、あっという間に冬になってしまいました。いよいよ寒さが厳しくなる折、どうぞ体調管理にはご留意下さい。

当院は呼吸器とアレルギーを主に診療しており、毎年この季節は大忙しです。とくに最近「咳がなかなか治らない」と言って受診される方が増えてきました。昨年来中国から大気汚染物質 PM2.5 が多く飛来しこれがのどや肺を痛めるので、風邪が治っても咳が残ってつらい思いをしている方が多いようです。

咳止め、痰切りや抗生物質で収まらない咳のなかには、アレルギー的な要因で生じている場合があります。その場合はステロイド剤を含んだ吸入薬が有効です。ただ、その場合でも正しく吸入しなければいけません。近隣の医院や病院でステロイド吸入薬を処方されている方の中には、正しい吸入方法を教えてもらっていないため、吸い込まずにのどの奥にシュッと吹きかけているだけの方がいます。これでは肺に薬が行かないため、全く効きません。またせっかく息を吸い込みながら口に噴霧していても、鼻から息を吸っている人もいます。この場合もやはり効かないでしょう。

それから、上手に吸えて咳が減ったらすぐに吸入を止めてしまい、咳が再発してきたらまた吸入する、そして効けばすぐに止める、こんな吸入の仕方も咳が止まらなくなるパターンの一つです。ステロイド吸入は咳が止まった後もしばらく続け徐々に減らすことが大事で、急に止めるのは良くありません。

せっかく効く薬を処方されているのに、吸い方が悪いと「この薬は効かない」とあきらめてしまう方が結構おられます。ちゃんと効果が出る吸入とはどのようなものか、ぜひ一度当院アレルギー内科にお越し下さい。わかりやすくお教えします。

またステロイド吸入薬は、口に残ると口腔内の抵抗力が弱まるので、口の中に細菌やカビがはびこる元となります。使ったら必ず5、6回はうがいしましょう。先日も大阪市内にある有名病院の呼吸器内科から、ステロイド吸入剤を処方された喘息患者さんが紹介されてきましたが、吸入指導は外来も薬局も不十分、それにうがいの必要性をどちらもまったく説明していませんでした。パンフレットには書いてあるのかもしれませんが、何も知らない患者さんはそんなところまで読むでしょうか？同業者としてがっかりしつつ、せっせと患者さんに説明している今日この頃です。

肺炎球菌ワクチンのはなし

呼吸器内科部長 ^{ししど}穴戸 ^{かつこ}克子

最近、外来診察中に「肺炎のワクチンってあるんですか」と尋ねられることが増えています。俳優の西田敏行さんが「予防接種で防げる肺炎もあります」とテレビで宣伝しているアレですね。正確には「肺炎のワクチン」ではなくて、「肺炎球菌ワクチン」です。肺炎球菌というのはその名の通り、肺炎を起

この原因菌の代表格であり、すべての肺炎の原因の約4分の1を占めています。また肺炎だけでなく敗血症や髄膜炎と言った恐ろしい病気も引き起こします。肺炎の原因として最多と言っても、逆にいえば、このワクチンだけですべての肺炎を防ぐことはできません。また肺炎球菌自体にも93種類の血清型があり、成人用の「肺炎球菌ワクチン」に含まれているのは、このうち頻度の高い23種類です。このように説明すると「なーんだ、じゃあ、それを打っても肺炎にならないってわけではないんですね」とがっかりされますが、接種後には重症感染症の発症を50～80%防御されると言われています。

肺炎は日本人の死亡原因の第3位であり、とくに高齢者にとっては怖い病気です。毎年接種が必要なインフルエンザワクチンと違い肺炎球菌ワクチンは1回接種すれば約5年間効果が持続すると言われています。かつては、日本では生涯に1回きりの接種しか認められていませんでしたが、2009年にこの制約がなくなり、再接種が可能となりました。接種が推奨されているのは、65歳以上の高齢者、慢性の心臓病、呼吸器疾患、糖尿病、腎不全などの持病がある人です。



<放射線科 紹介>

放射線科 診療放射線技師長

ベっしょ ゆういち
別所 右一



みなさまは「放射線科」とお聞きになってどのような所と思われますか？おそらくエックス線やレントゲンという言葉が連想されるのではないのでしょうか。「レントゲン」という言葉は今から約120年前にレントゲン博士（第1回ノーベル賞受賞者）がエックス線を発見したことから、その名前を使うようになりました。「息を吸って、とめてください。」というかけ声で検査する胸部エックス線検査は当科でも一番多い検査の一つであり、みなさまも一度はお受けになったことがあると思います。

放射線科では、放射線（エックス線やガンマ線など）や磁気を利用して身体各部の状態がよく分かる画像の提供と治療を行っています。スタッフは画像診断医、放射線治療医、診療放射線技師、看護師、受付など多職種で構成され、円滑に業務が行えるように努めています。そして検査の待ち時間の短縮はもとより、最新の機器を駆使し、より安全で有効な検査・治療ができるように努めています。

放射線の検査や治療は多種多様でいろんな特徴があります。例えば、CT、MRI、放射線治療、ラジオアイソトープ検査、マンモグラフィー、などがあり、その紹介をこれから数回にわたって説明していく予定です。



1月の教室案内

- | | | | | |
|----------|---|---------------|-------|-------|
| *カンガルー教室 | ● | 1月8・15・22・29日 | 午後1時～ | 第1会議室 |
| *喘息教室 | ● | 1月16日 | 午後2時～ | 第2会議室 |